

平成22年度事業計画書

自 平成22年4月 1日

至 平成23年3月31日

財団法人 福井県アイバンク

平成22年度事業計画書

1. 献眼登録

献眼登録者数は前年度末で11,795名（累計）、前年度中には31名の増加である。登録者は低調が続いている。

ホームページ・パンフレットを活用し、県・各ライオンズクラブ等の協力団体および福井県院内臓器移植コーディネーターなどの協力を得て、登録者増加を目指す。

2. 献眼者

献眼者は前年度中14名で、事業開設以来の累計は212名であり、利用眼球数は26眼であった。

開設以来の実績は、摘出眼球数 412眼・利用眼球数 372眼・保存眼球数 2眼・不使用眼球数 38眼であった。

前年度の年間献眼者数は、全国54アイバンク中19番目であった。

本年度も引き続き、福井県臓器移植コーディネーター・福井県院内臓器移植コーディネーターに協力を依頼し、病院開発等の活動を展開し、充実させる。

3. 角膜移植待機者数

角膜移植を希望し待機している目の不自由な患者は、前年度末で63名であった。前年度利用眼球26眼のうち、県内での移植されたのは16眼で、残り10眼は県外にて移植された。

全国では、前年度末で2,604名もの角膜移植希望待機患者がいらっしゃることを鑑み、今後も全国のアイバンクと連絡を密にし、献眼者の方の遺志が無にならないように鋭意努力をする。

4. 運営資金

財団法人は基本金の収益により運営される法人である。

しかし、まだまだ基本金収益での運営は望めない。

本年度もライオンズクラブの協力を依頼すると共に、目に関わる団体や一般の企業団体および個人の寄付金の募集にも努力する。

5. 会議・研究会

日本アイバンク協会セミナー、東海北陸地区アイバンク連絡協議会およびその他の会議にも積極的に参加し、幹旋業務の質の向上・知識を深めるとともに、全国のアイバンクと連絡を密にし、最新情報を得られるようにする。

また、県主催の福井県臓器移植普及推進検討会や福井県院内臓器移植コーディネーター研究会に参加し、情報の伝達収集を図る。

眼球摘出・移植医師の知識向上および献眼時、移植時の連携をスムーズに行うため実務者会議を開催する。

6. 広報活動

福井県アイバンクのホームページを活用し広報活動を行う他、報道機関やライオンズクラブ等の協力を得て、広報活動を行う。

特に献眼者数増加を図るため、献眼登録者の家族や一般の方々に対する理解を求めるとともに努力する。

また、県内医療機関・ライオンズクラブ・報道機関に日本アイバンク協会が年4回発行している広報誌「Eye Bank journal」を配布し、一層アイバンク活動を理解してもらえるように努力する。

7. 弔意

献眼者の通夜、葬儀には必ず役員および事務局員が出席し、香料・花輪・感謝状を贈り、弔意を表す。

8. 事務局

的確で、幅広い業務に対応できるよう研鑽に努める。

9. その他

その他目的達成のために必要な事業を行う。